

顧客情報や独自ノウハウを秘密情報として一元管理

本社 〒719-1102 岡山県総社市東阿曾1289-1

URL <https://www.technos1.com/>

業務内容 産業部品の材料調達・機械加工・表面処理まで一貫生産

設立 2004年 資本金 1,000万円 従業員数 108名（2024年）

半導体製造装置、液晶製造装置、航空機、農機具、産業機械部品等のあらゆる産業部品について、材料調達から、最新のマシニングセンターで実現するアルミ長尺機械加工、表面処理までを全て自社で一貫して行い、地元岡山県をはじめ、九州から関東まで日本全国の取引先へ供給。



代表取締役社長 藤井範之氏

■ 相談のきっかけ

同社では、産業部品から航空機部品に至るまでアルミ長尺加工のオーダーメイドを実現しており、顧客のニーズに合わせて高品質の製品を提供している。その特徴ゆえに、独自仕様の機械設備や加工技術ノウハウに加え、顧客ごとの情報も多数有している状況であった。工場の拡張や外国人技能者の採用を進める中、それら秘匿すべき情報の適切な管理の必要性を藤井社長が感じ、INPIT岡山県知財総合支援窓口にご相談したことで、知財戦略エキスパート（以下「知財EX」）による支援を受けることになった。



保有加工機例（VARIAXIS i-700）

■ 知財戦略エキスパートの支援内容

（1）秘密情報の洗い出し～秘密情報管理台帳の整備～

まず知財EXは、営業秘密管理に関する法制度や実務プロセス、企業内情報の流出事例などを藤井社長へ説明した。そして、本社と稼働中の3工場を視察して、同社が保有する秘密情報を洗い出すとともに、従業員が秘密情報であることを認識できているかについて点検を行った。

また知財EXは、自社情報・他社情報を明確に切り分けた上で、部門別・年度別・製品別などのジャンルごとに秘密情報管理台帳にリストアップしていき、その次に極秘・社外秘といった秘密の格付け区分を付与することで、厳正管理に取り組むよう助言した。特に、同社は多くの取引先を抱えており、図面や作業指示書、工程表などの情報を顧客別に整理する必要があった。そこで、最初から全ての情報を網羅したリストの作成を目指すのではなく、最終的な一元管理に向けて、まずは同社の最重要事業や最新年度の顧客情報など、着しやすところからリストアップを進めるよう助言を行った。

また同社は、AIによる見積り作成サービスの活用や、社

内業務フローのデジタル化など、藤井社長を中心にDX戦略を推進している。そこで知財EXは、従来と管理方法が異なる情報についても保管形式・場所及びアクセス権者を明確化した上でリストアップするとともに、並行してサーバ内の5S（整理、整頓など）を進めることの重要性を説明した。

さらに、長時間の訓練を要する同社機械の「稼働率維持・向上」という、業務によって習得した「技能」についても、秘密管理すべき重要な加工技術のノウハウである旨を助言し、明文化してリストアップするよう促した。

（2）従業員の意識向上～秘密の明示～

営業秘密として法律で保護されるための条件の一つ、「秘密管理性」を理解した同社は、工場内の全ての書類に予め同社オリジナルデザインの「社外秘」スタンプを押印し、特に作業指示書や原価伝票には「マル秘」を記載するなど、従業員の秘密管理の意識向上を図った。また、工具業者など外部の者が、実質的に自由に同社工場内へ立ち入れるようになっているとの知財EXの指摘を踏まえ、同社はノウハウ漏えいを防ぐために立ち入り禁止エリアの整備に取り組んだ。

（3）情報管理体制の強化～社内規程類の整備～

同社は、秘密情報管理規程や入社時・退職時の秘密保持に関する誓約書など、本社・工場を含む全社的な管理ルールの方策にも取り組んだ。知財EXは、経済産業省が公開している規程類雛形を同社に提供し、それに基づき同社が整備した内容に不備がないかどうか綿密な確認を行うことで、策定を支援した。

各規程の実運用の前提として、従業員への周知が重要となる。そこで知財EXは、藤井社長を含む全従業員向けに、企業における秘密保持の重要性や、秘密情報管理規程・秘密保持誓約書の運用の意義についてガイダンス（キックオフミーティング）を実施した。全従業員の理解と納得を得た上で、同社は各規程の社内運用を開始した。

支援企業の声

当社は機械加工業を営んでおりますが、独自技術なのか認識しておりませんでした。INPITから御指導を頂き独自技術であると気づかされ、加工データ、図面、資料等の保管を、秘匿なのかそうでないのか仕分けし社員の閲覧もレベルによって制限をかけるようにできました。また保管に関して各管理責任者を設け運用し責任範囲もわかるようになり、会社として一段とレベルアップすることができました。（代表取締役社長 藤井範之氏）

知財戦略エキスパートのコメント

工場の拡大・再配置が計画される中で営業秘密管理の重要性がますます高まる中、オリジナルデザインの「社外秘」スタンプを工場内のすべての書類に徹底してマーキングすることで、従業員の秘密管理の意識向上が見られるようになりました。今後は同社が秘密情報管理台帳をベースに、事業成長に合わせて順次アップデートを行い、営業秘密管理体制を盤石にしていくことを期待しています。（知財戦略エキスパート 幸谷泰造）